ガンマ分布とベータ分布

(Gamma and Beta Distributions)

緑川童一*

1 ガンマ分布の導出

確率変数 x_1, x_2, \cdots, x_n は、互いに独立で、指数分布 $f(x_i) = \lambda e^{-\lambda x_i}$ $(i=1, 2, \cdots, n)$ に 従うものとする。このとき、ガンマ分布 (gamma distribution) は、これら n コの独立変数の和 $z=x_1+x_2+\cdots+x_n$ の分布として導き出される。すなわち、

$$f_n(z) = \lambda^n \int \delta(z - x_1 - x_2 - \dots - x_n) e^{-\lambda(x_1 + x_2 + \dots + x_n)} dx_1 dx_2 \cdots dx_n$$
 (1)

で与えられる。

(1) 式の積分は容易に実行することができる。 x_i 0 $(i=1,\ 2,\ \cdots,\ n)$ に注意すると、

$$f_n(z) = \lambda^n e^{-\lambda z} \int_0^z dx_n \int_0^{z - x_n} dx_{n-1} \cdots \int_0^{z - (x_4 + \dots + x_n)} dx_3 \int_0^{z - (x_3 + x_4 + \dots + x_n)} dx_2$$
 (2)

となる。積分範囲が上記のようになることは、以下のようにして導くことができる。

 $z=x_1+x_2+x_3+\cdots+x_n$ より、 $x_1=z-(x_2+x_3+\cdots+x_n)$ りなので、 $x_2-z-(x_3+\cdots+x_n)$. ところが、 x_2-0 だから、 $x_3-z-(x_4+\cdots+x_n)$. 今度は x_3-0 だから、 $x_4-z-(x_4+\cdots+x_n)$ 等々、と繰り返すと、最後に x_n の範囲として $0-x_n-z$ を得る。

(2) 式の積分を実際に実行する。まず、

$$\int_0^{z-(x_3+x_4+\cdots+x_n)} dx_2 = (z-(x_4+\cdots+x_n))-x_3$$

次に、

$$\int_0^{z-(x_4+\cdots+x_n)} \left\{ (z-(x_4+\cdots+x_n)) - x_3 \right\} dx_3 = \frac{1}{2!} \left(z-(x_4+\cdots+x_n) \right)^2$$
$$= \frac{1}{2!} \left((z-(x_5+\cdots+x_n)) - x_4 \right)^2$$

更に、

$$\frac{1}{2!} \int_0^{z - (x_5 + \dots + x_n)} \left\{ (z - (x_5 + \dots + x_n)) - x_4 \right\}^2 dx_4 = \frac{1}{3!} \left(z - (x_5 + \dots + x_n) \right)^3 \\
= \frac{1}{3!} \left((z - (x_6 + \dots + x_n)) - x_5 \right)^3$$

^{*}Shoichi Midorikawa

と繰り返して、最後に、

$$\frac{1}{(n-2)!} \int_0^z (z - x_n)^{n-2} dx_n = \frac{1}{(n-1)!} \left[-(z - x_n)^{n-1} \right]_0^z$$
$$= \frac{1}{(n-1)!} z^{n-1}$$

を得るので、

$$f_n(z) = \frac{\lambda^n}{(n-1)!} z^{n-1} e^{-\lambda z}$$

となる。ところで、 $\Gamma(n)=(n-1)!$ だから、ガンマ関数を用いて書き直すと、

$$f_n(z) = \frac{\lambda^n}{\Gamma(n)} z^{n-1} e^{-\lambda z} \tag{3}$$

となる。ところで、ガンマ関数の積分表示は、

$$\Gamma(n) = \int_0^\infty x^{n-1} e^{-x} \, dx$$

であった。(3) 式の積分から、

$$\lambda^n \int_0^\infty z^{n-1} e^{-\lambda z} dz = \int_0^\infty x^{n-1} e^{-x} dx \quad (x = \lambda z)$$
$$= \Gamma(n)$$

が得られる。。 そこで、(3) 式をガンマ分布 (gamma distribution) と言い、記号 $Ga(n, \lambda)$ で表す。

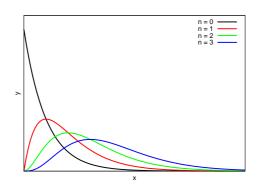


図 1: ガンマ分布 $Ga(n, \lambda)$ n = 0, 1, 2, 3 の場合

2 ガンマ分布のモーメント母関数

ガンマ分布のモーメント母関数 $M_Z(t)$ を求めよう。

$$M_Z(t) = \int_0^\infty e^{tz} f_n(z) \, dz$$

に、(1) 式を代入すると、

$$M_Z(t) = \left(\lambda \int_{-\infty}^{\infty} e^{(t-\lambda)x_1} dx_1\right) \left(\lambda \int_{0}^{\infty} e^{(t-\lambda)x_2} dx_2\right) \cdots \left(\lambda \int_{0}^{\infty} e^{(t-\lambda)x_n} dx_n\right)$$

ところで、 $i=1, 2, \cdots n$ に対して、

$$M_i(t) = \left(\lambda \int_0^\infty e^{(t-\lambda)x_i} dx_i\right)$$

$$= \frac{\lambda}{\lambda - t} \qquad (ただし、t < \lambdaとする)$$

となるので、

$$M_Z(t) = \left(rac{\lambda}{\lambda - t}
ight)^n$$
 (ただし、 $t < \lambda$)

を得る。

3 ガンマ分布と χ^2 分布

自由度 n の χ^2 分布は、

$$T_n(z) = \frac{1}{2\Gamma(n/2)} \left(\frac{z}{2}\right)^{\frac{n}{2}-1} e^{-\frac{z}{2}}$$

であった。この式と (3) 式を比べると、自由度 n の χ^2 分布は、 $Ga(n/2,\ 1/2)$ であることが分かる。

4 ベータ分布

2 つの独立な確率変数 x と y を考える。確率変数 x はガンマ分布 $Ga(m,\ \lambda)$ に、確率変数 y は $Ga(n,\ \lambda)$ に従うとする。すなわち、

$$f_m(x) = \frac{\lambda^m}{\Gamma(m)} x^{m-1} e^{-\lambda x}$$
(4a)

$$f_n(y) = \frac{\lambda^n}{\Gamma(n)} y^{n-1} e^{-\lambda y} \tag{4b}$$

とする。

$4.1 \quad x/(x+y)$ の分布

確率変数 $z=rac{x}{x+u}$ の分布は、

$$f_Z(z) = \int \delta\left(z - \frac{x}{x+y}\right) f_m(x) f_n(y) dxdy$$

で与えられる。この積分を求めるのだが、yについての積分を先に実行することにすると、

$$\delta\left(z - \frac{x}{x+y}\right) = \frac{x}{z^2}\delta\left(y - \frac{(1-z)x}{z}\right)$$

だから、

$$f_Z(z) = \frac{1}{z^2} \int_0^\infty x f_m(x) f_n\left(\frac{1-z}{z}x\right) dx \tag{5}$$

となる。この式に (4a), (4b) 式を代入して計算すると、

$$f_{Z}(z) = \frac{\lambda^{m+n}}{\Gamma(m)\Gamma(n)} z^{-n-1} (1-z)^{n-1} \int_{0}^{\infty} x^{m+n-1} e^{-\lambda x/z} dx$$

$$= \frac{1}{\Gamma(m)\Gamma(n)} z^{m-1} (1-z)^{n-1} \int_{0}^{\infty} t^{m+n-1} e^{-t} dt \qquad \left(t = \frac{\lambda}{z}x\right)$$

$$= \frac{\Gamma(m+n)}{\Gamma(m)\Gamma(n)} z^{m-1} (1-z)^{n-1}$$

$$= \frac{z^{m-1} (1-z)^{n-1}}{B(m,n)} \qquad (0 \quad z \quad 1)$$

ここで、

$$\Gamma(m+n) = \int_0^\infty t^{m+n-1} e^{-t} dt$$

および、

$$B(m,n) = \frac{\Gamma(m+n)}{\Gamma(m)\Gamma(n)}$$

を用いた。

ベータ関数 B(m,n) の積分表示は、

$$B(m,n) = \int_0^1 z^{m-1} (1-z)^{n-1} dz$$

なので、確率密度関数

$$f_Z(z) = \frac{z^{m-1}(1-z)^{n-1}}{B(m,n)} \qquad (0 \quad z \quad 1)$$
(6)

をベータ分布と呼び、Be(m,n) で表す。

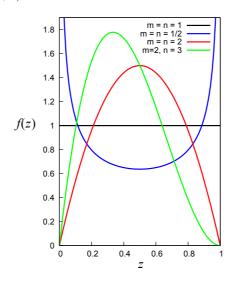


図 2: ベータ分布 Be(m,n)

4.2 x/y の分布

確率変数 $u=rac{x}{y}$ の分布は、

$$f_U(u) = \int \delta\left(u - \frac{x}{y}\right) f_m(x) f_n(y) dxdy$$

で与えられる。この積分を求めるときに、今度はxについての積分を先に実行することにすると、

$$\delta\left(u - \frac{x}{y}\right) = y\delta\left(x - uy\right)$$

だから、

$$f_U(u) = \int y f_m(uy) f_n(y) \, dy \tag{7}$$

となる。この式に (4a), (4b) 式を代入して計算すると、

$$f_U(u) = \frac{\lambda^{m+n}}{\Gamma(m)\Gamma(n)} u^{m-1} \int_0^\infty y^{m+n-1} e^{-\lambda(1+u)y} dy$$
(8)

ここで、 $t = \lambda(1+u)y$ とおくと、

$$f_{U}(u) = \frac{1}{\Gamma(m)\Gamma(n)} \frac{u^{m-1}}{(1+u)^{m+n}} \int_{0}^{\infty} t^{m+n-1} e^{-t} dt$$

$$= \frac{\Gamma(m+n)}{\Gamma(m)\Gamma(n)} \frac{u^{m-1}}{(1+u)^{m+n}}$$

$$= \frac{1}{B(m,n)} \frac{u^{m-1}}{(1+u)^{m+n}}$$
(9)

を得る。

ところで、ベータ関数の積分表示は、

$$B(m,n) = \int_0^1 z^{m-1} (1-z)^{n-1} dz = \int_0^\infty \frac{u^{m-1}}{(1+u)^{m+n}} du \qquad u = \frac{z}{1-z}$$

なので、(9) 式も、また、一種のベータ分布とみなすことができる。

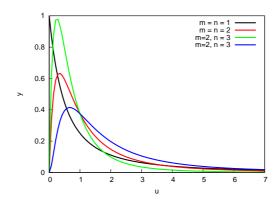


図 3: 分布 $f_U(u)$

$$z^{m-1}(1-z)^{n-1}$$
 と $\frac{u^{m-1}}{(1+u)^{m+n}}$ の関係は、

$$z^{m-1}(1-z)^{n-1} = \int_0^\infty \delta\left(z - \frac{u}{1+u}\right) \frac{u^{m-1}}{(1+u)^{m+n}} du$$

で与えられる。このことは、デルタ関数の公式、

$$\delta\left(g(u)
ight)=rac{1}{|g'(lpha)|}\delta(u-lpha)$$
 ここに、 $lpha$ は $g(u)=0$ の解である。

を用いれば、容易に証明できる。今の場合は、 $\delta\left(z-\frac{u}{1+u}\right)=\frac{1}{(1-z)^2}\delta\left(u-\frac{z}{1-z}\right)$ である。 ゆえに (6) 式と (9) 式の関係は、

$$f_Z(z) = \frac{1}{(1-z)^2} f_U\left(\frac{z}{1-z}\right)$$

となる。